

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
経済学 Economics		1年	前期・後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	( )	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ビジネス実務総論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		
授業の概要				
実務で役立つ、マクロ&ミクロ経済学・金融・財政・国際経済の“楽習”を通して、世界の出来事をより深く洞察できる能力と同時に、人生を生き抜く“ファイナンス力”を身につけた人材を育成します。				
授業の目標				
①「国際経済から見た国家 (a. 日本《プラザ合意、バブル経済、不毛の30年》、b. アメリカ《ITバブル、雇用と財政、リーマン・クラッシュ》、c. アジア《通貨危機》、d. 100年に一度の経済危機)」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ②「経済活動」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ③「ミクロ経済学」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ④「マクロ経済学」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ⑤「金融・財政と国際経済」を習得し、第三者に説明できるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、経済学に精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果 (学習成果)				
「国際経済から見た国家」、「経済活動」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「金融・財政と国際経済」等の知識・概念を身につけ、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法を実生活で活用することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)			
第2回目	国際経済から見た国家 (①日本《プラザ合意、バブル経済、不毛の30年》、②アメリカ《ITバブル、雇用と財政、リーマン・クラッシュ》、③アジア《通貨危機》、④100年に一度の経済危機)			
第3回目	国際経済から見た国家 (①EUの誕生、②中国、③BRICs)			
第4回目	経済活動 (①経済学とは、②経済学に学ぶ自己責任の時代、③経済学の領域)			
第5回目	経済活動 (①歴史に学ぶ経済学、②経済学の概念、③経済システム)			
第6回目	ミクロ経済学 (①需要曲線、需要の変化、需要の価格弾力性、②供給曲線、供給の変化、供給の価格弾力性) / プレゼンテーション&ディスカッション①			

第7回目	ミクロ経済学 (①生産理論、②経済モデル、③市場構造、④企業戦略、⑤逆選択) /プレゼンテーション&ディスカッション②	
第8回目	マクロ経済学 (①GDP、付加価値、三面等価、②限界消費性向、投資、③輸出入) /プレゼンテーション&ディスカッション③	
第9回目	マクロ経済学 (①政府支出、名目・実績GDP、②経済成長率、インフレーション、デフレーション、スタグフレーション、③失業) /プレゼンテーション&ディスカッション④	
第10回目	金融・財政 (①金融とは、中央銀行、金融政策、金融ビックバン、②M&A、債券、③ヘッジファンド、信用取引、証券化) /プレゼンテーション&ディスカッション⑤	
第11回目	金融・財政 (①財政とは、財政政策、②乗数効果、③年金) /プレゼンテーション&ディスカッション⑥	
第12回目	国際経済 (①外国為替市場、②変動為替相場) /プレゼンテーション&ディスカッション⑦	
第13回目	国際経済 (①一物一価、②購買力平価) /プレゼンテーション&ディスカッション⑧	
第14回目	国際経済 (①為替差損・差益、②テロリズムと経済) /国際経済 (①比較優位、②産業の空洞化、③国際収支)	
第15回目	国際経済の時事問題	
事前・事後学習	事前学習(シラバスの学習ポイントを自分で調べ、質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを見直しながら、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜き、3)自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	40%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験		
発表内容 (態度含む)	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
		長江庸泰作成の“デジタルテキスト[経済学 2018年度版]”を活用する。
履修上の留意点・ルール		
		本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。